


なるほど！うみはく
海女展示のリニューアル

市立海の博物館 ☎ (32) 6006



vol.12

博物館は、3月2日(月)～13日(金)の12日間、臨時休館させていただきます。海女展示の一部をリニューアルします。

鳥羽志摩の海女漁には、フナドとカチドがあるのをご存じですか。

カチドでは海女が岸や船から自力で潜水するのに対し、フナドは左の図のように重いオモリを持って急速に潜水し、トマエ(船を操る男性)に命綱を引き上げてもらって浮上する操業形態です。



フナド海女の潜水

このほか、クラウドファンディング制度により、昨年度「海女文化をPRする場の充実」などの海女文化継承に対してお寄せいただいた寄付金を活用して、フナド海女の操業を再現した模型を設置します。

今回の改修では、フナド海女が海へ潜ろうとする姿を再現しますが、船は実際に漁に使っていた実物の木造漁船を展示場に出し、フナド海女漁の装備を施します。

既存の「鳥羽・志摩の海女コーナー」についてもパネルを手直しして、海女に関する情報をより分かりやすく工夫します。



とばっこくらぶ
夏に実施した館内案内の様子

リニューアルした展示は3月14日から見学できます。展示をより深く楽しんでいただくため、海女展示ガイドツアーを次のとおり予定しています。市内の小・中学生については、春休みいっぱいまで入館無料ですので、ぜひこの機会に海の博物館にお出かけください。

海女展示ガイドツアー

●館長による案内
とき 3月14日(土)
午後1時30分～2時30分

3月20日(金・祝)、21日(土)、28日(土)

いづれも午前11時～正午
●鳥羽高校生による案内
とき 3月15日(日)
午前11時～正午

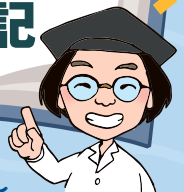
地域研究サークル「とばっこくらぶ」のみなさんによるガイドツアーを実施します。

鳥羽・海藻文化革命
岩尾博士の
海藻博物記

vol.12

～イロコの話～

水産研究所 ☎ (25) 3316



石鏡ではウシノシテ、安楽島ではイワキと呼ばれる海藻、その名称で図鑑を調べても出てこない。標準和名をイロコという。夏の間は姿を消しているが、秋ごろから芽吹き、春になると磯のあちこちに茂る。波あたりが比較的強くても浅い場所、干潮時には干上がってしまうような岩場に生えている。僕はこの海藻が非常に好きで、強い興味を持っていて。

比較的甘めの味付けで海藻を調理するこの地方においても、石鏡では特に甘くすることもなく、薄めの味付けの煮物にするということも気になるが、生物学的にもイロコはとても興味深い。

海藻という生き物は陸上植物と違い乾燥に弱い。体から水分が蒸発するのを防ぐ仕組みを持っていないからであ

る。しかし、ノリやヒジキ、そしてこのイロコなどは乾燥に強い。ヒジキは体にたつぷり水を含み、重なり合って生えることで乾燥しにくくしている。本当の意味で乾燥に強いわけではない。対して、ノリやイロコはカリカリに近い状態まで乾いても生きています。また、紫外線や冬の低温に対しても他の海藻よりも強い。生きていくのに必要な機能を守る「仕組み」を持っているのである。なぜそんな仕組みを持たなければいけなかったのか。いつ確立したのか。何種類あるのか。一部の緑色の植物はその仕組みを発達させて陸上に進出することになったが、なぜノリやイロコの仲間はそのならなかったのか。生物進化の秘密を明らかにする鍵が干上がった磯のあちこちに置いてあるように僕には見える。



干潮時の磯にかなり乾いた状態で生えているイロコ